



2026 年度 鉄道事業設備投資計画 ホームドア設置や連立事業の推進 総額 449 億円

京浜急行電鉄株式会社（本社：横浜市西区，社長：川俣 幸宏，以下 京急電鉄）は，安全対策の強化やホームドア設置・連立事業のさらなる推進を図るため，2026 年度は過去最高となる総額で約 449 億円の設備投資を実施いたします。

本年度は引き続きホームドア設置工事や品川駅付近連続立体交差事業，羽田空港第 1・第 2 ターミナル駅引上線新設工事などを推進するほか，全車両への防犯カメラの設置を進めてまいります。また，照明設備の LED 化といった環境負荷低減に向けた取り組み，今後の労働力不足への対応や事業効率化を進めるうえで必須となる ICT・DX への投資など将来の成長に向けた投資についても着実に進めてまいります。

主な設備投資計画の内容は以下の通りです。（詳細は次ページ以降の別紙をご参照ください）

【2026 年度 鉄道事業 設備投資計画の概要（総額約 449 億円）】

1. さらなる安全対策の強化（約 203 億円）

- (1) 品川駅付近（泉岳寺～新馬場駅間）連続立体交差事業の推進
- (2) 車両の代替新造，車内防犯カメラ設置
- (3) 踏切安全対策の強化
- (4) 激甚化する自然災害への対策

2. ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供（約 137 億円）

- (1) ホームドア設置工事の推進
- (2) 駅改良工事（大規模改良，耐震補強等）
- (3) 車両更新工事（多目的スペースの設置・窓の開閉化等）

3. 環境負荷低減に向けた取り組み（約 8 億円）

- (1) 駅および車両照明設備の LED 化
- (2) 省エネルギー設備への更新，導入

4. 将来の成長に向けた投資（約 101 億円）

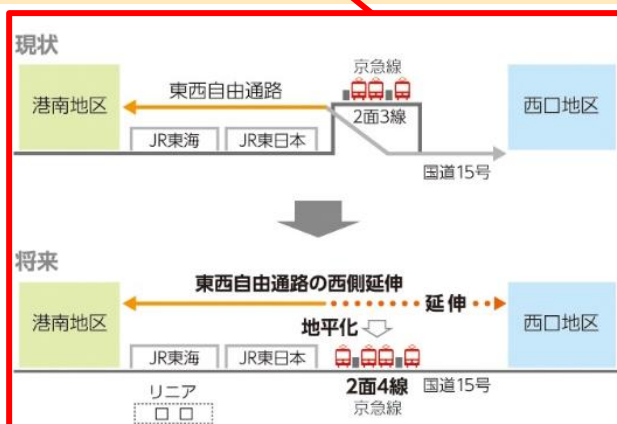
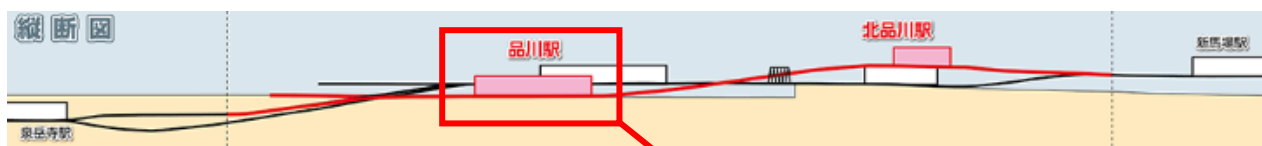
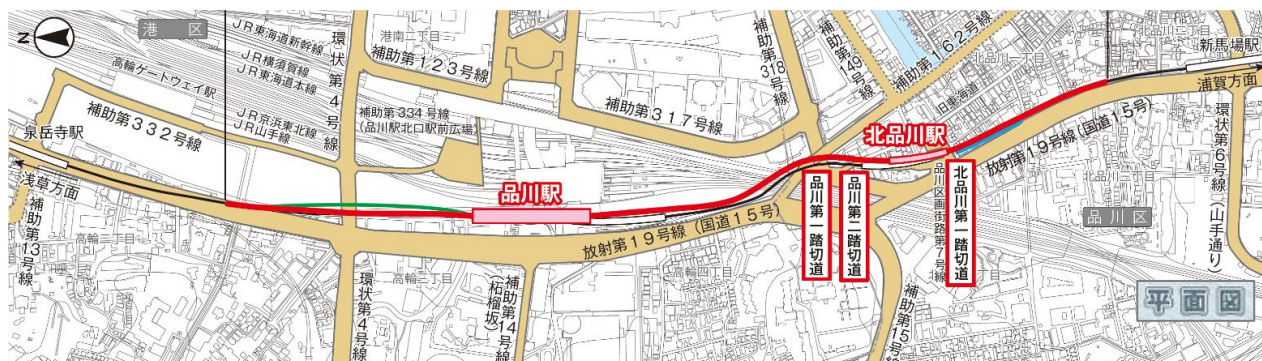
- (1) 羽田空港第 1・第 2 ターミナル駅引上線新設工事
- (2) 泉岳寺駅改良工事
- (3) 鉄道オペレーション変革に向けた取り組み

2026 年度 設備投資計画の詳細について

1. さらなる安全対策の強化（約 203 億円）

(1) 品川駅付近（泉岳寺～新馬場駅間）連続立体交差事業の推進

泉岳寺～新馬場駅間は、品川第1踏切道（ハツ山通り）をはじめとする計3か所の踏切道が存在し交通渋滞の要因となっています。そのため、東京都の都市計画事業として同区間を高架化し、3か所の踏切道を除却いたします。また品川駅の地平化および2面4線化を図り、利便性および安全性の高い駅へと再編いたします。2026年度は、泉岳寺～品川駅間仮南行線への切替（平面図緑線部）、品川駅大屋根の撤去および北品川駅部本設高架橋の構築など、事業区間全域で工事を推進し早期事業完了を目指してまいります。



< 連立区間の平面図・断面図 >

< 品川駅地平化イメージ >



< 仮線高架橋の構築状況 >



< ハツ山跨線々路橋の架設状況 >

(2) 車両の代替新造, 車内防犯カメラ設置

より安全で快適な車両環境をご提供するため, 車両の代替新造をいたします。また, 今後の輸送需要に見合った効率的かつフレキシブルな車両編成ができるよう 2 両編成を導入いたします。

・代替新造: 1000 形: 24 両 (4 両編成×4 編成, 2 両編成×4 編成)

そして, 近年の電車内における傷害事件等の発生を踏まえ, 地上側からリアルタイムに車内映像を確認できる通信機能付き防犯カメラの全車両への設置を 2026 年度中に完了いたします。



＜代替新造車両イメージ＞



＜車内防犯カメラ＞

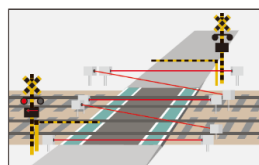


＜車内の設置状況＞

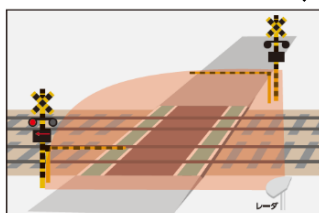


(3) 踏切安全対策の強化

当社線内の自動車が通行する踏切道 (64 か所) には, 自動車の立ち往生を自動的に検知する踏切障害物検知装置を設置しており, 引き続き, 従来の方式より検知機能を強化した機器へ更新を進めてまいります。(2026 年度は 5 か所実施予定)



▲光ビーム検知装置



▲赤外線レーザーレーダを用いた検知装置



(4) 激甚化する自然災害への対策

近年増大する自然災害のリスクに備えるため, 耐震補強工事, 法面防護工事などを引き続き推進いたします。

- ・耐震補強工事: 高架橋 (弘明寺～上大岡駅間)
- ・法面防護工事: 杉田～京急富岡駅間ほか



＜高架橋耐震補強工事例 (弘明寺～上大岡駅間)＞



＜法面防護工事例 (杉田～京急富岡駅間)＞

2. ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供（約 137 億円）

(1) ホームドア設置工事の推進

お客さまのホームからの転落や列車との接触を防止するため、ホームドア設置工事を進めており、昨年度までに 21 駅にホームドアを設置いたしました。

2026～2028 年度にかけては、計 20 駅において設置工事を進めてまいります。

また、羽田空港第 3 ターミナル駅においてホームドア更新工事を実施し、2 番線のホームドアにはデジタルサイネージを導入いたします。

設置完了済駅 (2025 年度末)	青物横丁駅，平和島駅，大森町駅 梅屋敷駅，京急蒲田駅，六郷土手駅 京急川崎駅，京急鶴見駅，生麦駅 京急東神奈川駅，横浜駅 日ノ出町駅，上大岡駅， 金沢文庫駅，金沢八景駅，追浜駅 汐入駅，羽田空港第 3 ターミナル駅 羽田空港第 1・第 2 ターミナル駅 大師橋駅，小島新田駅	21 駅
2026～2028 年度 設置予定駅	新馬場駅，鮫洲駅，立会川駅 大森海岸駅 京急蒲田駅（2・5 番線）注 1 雑色駅，八丁畷駅，弘明寺駅 屏風浦駅，杉田駅，横須賀中央駅 県立大学駅，糀谷駅，大鳥居駅 穴守稻荷駅，天空橋駅， 京急川崎駅（3 番線）注 1，港町駅 鈴木町駅，川崎大師駅，東門前駅 京急久里浜駅	20 駅



<大森町駅ホームドア>



<羽田空港第 3 ターミナル駅ホームドア
デジタルサイネージ導入イメージ>

上記駅以外も、設置に向けた調査・設計等を行い、引き続き各駅へのホームドアの設置を推進してまいります。

※ 品川駅，穴守稻荷駅は，ホーム固定柵を設置しています。

注 1：設置予定駅数に含まず

(2) 駅改良工事（大規模改良，耐震補強等）

神奈川新町駅は大規模改良工事に着手し，エレベーターやエスカレーターの新設と併せて道路との接続歩道橋なども整備し，駅周辺と一体的な移動円滑化を図ってまいります。花月総持寺駅は，橋上駅舎の耐震補強工事と併せて，駅舎のリニューアル，旅客用トイレの新設などを進めてまいります。

- ・大規模改良 対象駅：神奈川新町駅（エレベーター・エスカレーター新設等）
- ・駅舎耐震補強 対象駅：花月総持寺駅（併せてトイレ新設・コンコースのリニューアル等）



<大規模改良工事中の神奈川新町駅の様子と改良後のイメージ>

(3) 車両更新工事（多目的スペースの設置・窓の開閉化等）

車体更新に併せ、車いす・ベビーカーのご利用や大きなトランクをお持ちのお客さまが快適にご乗車いただけるよう多目的スペースを設置するほか、非常通話装置の増設、固定窓の一部開閉化などを行います。

・車体更新：1000 形：20 両（8 両編成×1 編成，4 両編成×3 編成）



＜多目的スペース設置例＞

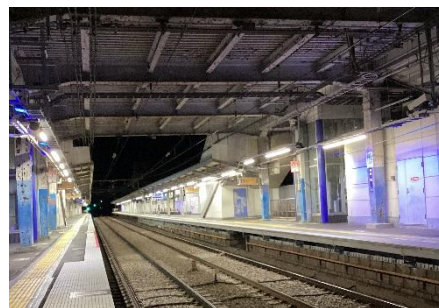


＜窓の開閉化例（二段下降窓）＞

3. 環境負荷低減に向けた取り組み（約8億円）

(1) 駅および車両照明設備のLED化

温室効果ガス排出量削減のため、全駅および全車両で照明設備のLED化を推進いたします。2026年度は新馬場駅など10駅のホーム・コンコース等の照明設備，27両の車両照明設備LED化工事を実施いたします。

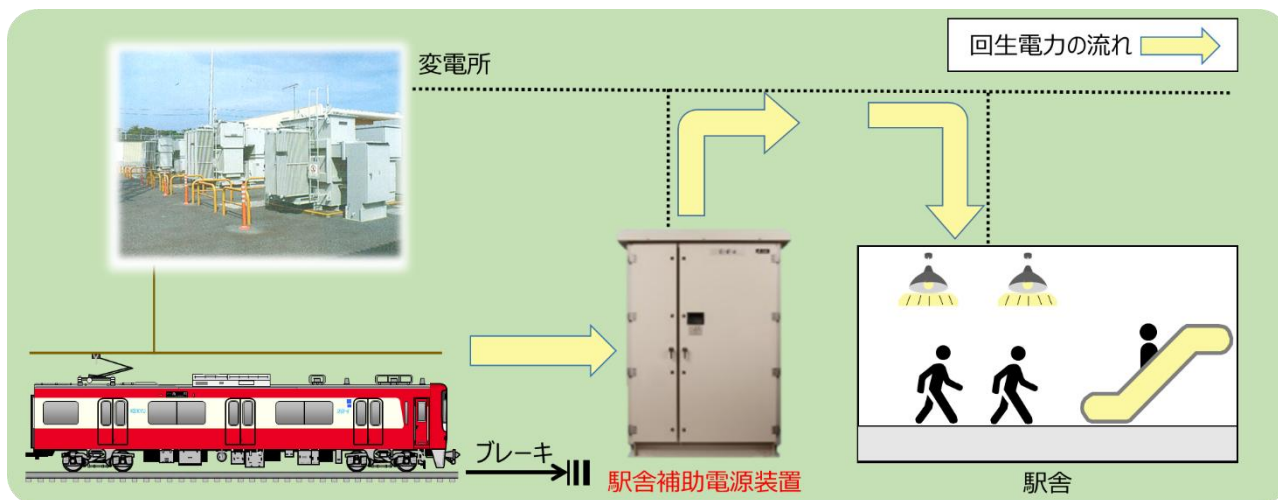


＜駅照明設備のLED化例（杉田駅）＞

(2) 省エネルギー設備への更新，導入

駅のエレベーターやエスカレーターを更新するほか、電車がブレーキをかけた時に発生する電力（回生電力）の余剰分を、駅舎の電気設備に供給し、駅の照明や空調・エスカレーター等で有効に利用できる「駅舎補助電源装置」を当社変電所に導入するなど、低炭素社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

（節電効果見込：エレベーター更新は最大約50%，エスカレーター更新は約10%）



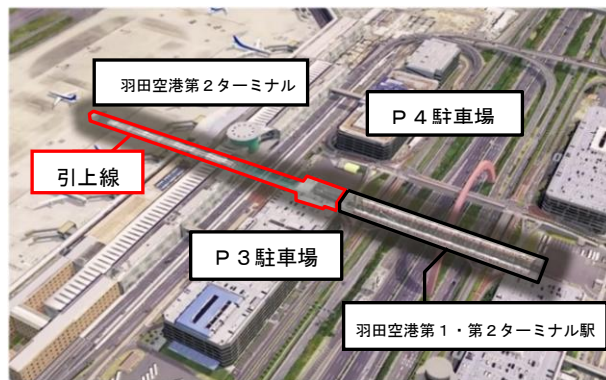
＜駅舎補助電源装置のイメージ＞

4. 将来の成長に向けた投資（約 101 億円）

(1) 羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線新設工事

将来の航空旅客の増加を見据え、羽田空港アクセスのさらなる輸送力増強，利便性向上を図るため，国土交通省と当社で相互に協力して羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線の新設および駅改良工事を進めてまいります。

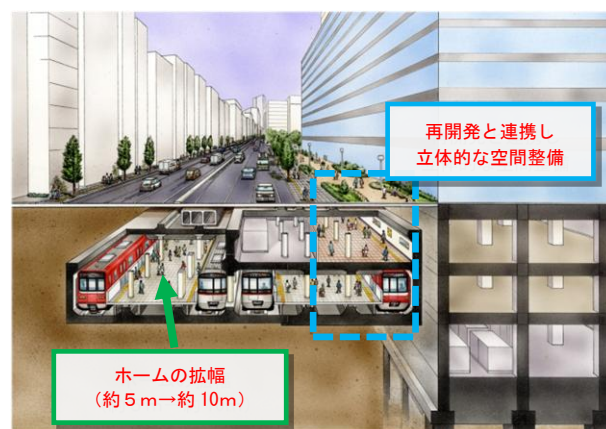
※引上線は車両の入換え等を行う専用線です。



<引上線のイメージ図>

(2) 泉岳寺駅改良工事

泉岳寺駅および品川駅北周辺地区は将来の駅周辺地域の開発による交流人口の飛躍的な増加が見込まれております。これに伴い，泉岳寺駅のホームの拡張およびコンコースの拡張や昇降施設，出入口などの機能強化を行い，駅の利便性，安全性の向上やバリアフリー化を図ります。また，この改良工事は駅隣接街区にて東京都が施行する市街地再開発事業と連携して進めてまいります。



<泉岳寺駅改良工事のイメージ図>

(3) 鉄道オペレーション変革に向けた取り組み

2024 年度から進めている自動改札機更新について，2026 年度も引き続き進めるとともに，自動券売機・自動精算機の更新も進めてまいります。新しい自動券売機・自動精算機は 8 言語での表示など，今後ますます増加が見込まれるインバウンド需要にも対応しております。また，QR 乗車券等の次世代システムを今後段階的に導入する予定です。その他，駅の信号取り扱い業務の自動化を拡大し，さらなる保安度の向上と業務効率化を進めるほか，車両や施設の保守部門においても業務の高度化を図るため，ICT 技術を活用したシステムの導入等を進めてまいります。



<新しい自動券売機>



< 8 言語対応の様子>



<信号取り扱い自動化イメージ>